

## 製品・技術 PR レポート

## 1. 企業概要

会社名	日環科学株式会社		代表者名	宮本 浩邦			
			窓口担当	森 健一			
事業内容	好熱菌を活用した食糧生産環境制御		URL	<a href="http://je-s.co.jp/">http://je-s.co.jp/</a>			
主要製品	[開発] 好熱性微生物 BP-863、豚用飼料 プタミンエース、低脂肪豚肉 ノンメタポーク 他						
住所	〒260-0034 千葉県千葉市中央区汐見丘町11-1(2F)						
電話/FAX 番号	043-302-2322/043-302-2123		E-mail	mail@je-s.com			
資本金(百万円)	10	設立年月日	平成元年 6 月	売上(百万円)	63	従業員数	5

## 2. PR事項

## 『好熱菌からはじまる“食糧生産イノベーション”という未来を創造』

バイオベンチャー日環科学は、2000年6月に創業して以来、一貫して極限環境微生物の一種である「好熱性微生物(好熱菌)」を活用した、食糧生産技術の研究開発を進めてきました。

## ●プロバイオティクス効果を有する好熱菌

畜産向けのプロバイオティクス(善玉菌)効果を有する新種の好熱菌「BP-863」の研究開発においては、経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」(サポイン)の採択を受け、畜産動物の脂肪を減らしつつ、筋肉量を増加させるといった、画期的な機能性を畜産現場レベルで実証することに成功いたしました。

## ●好熱菌を利用してノンメタポークを開発

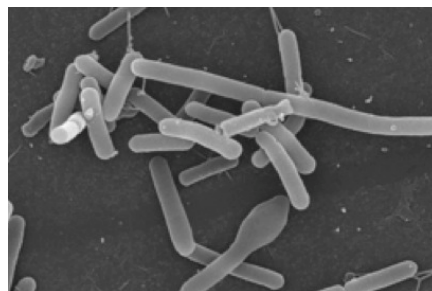
このような技術的な成果に基づく「食糧生産イノベーション」を実現・加速させるため、本研究の主任研究者である児玉浩明・千葉大学教授、畜産環境改善事業を展開する京葉プラントエンジニアリング(京葉ガスグループ)および千葉大学客員准教授を兼務する、当社代表の宮本らが中心となり、ジョイントベンチャー「株式会社サーマス」を2013年1月に設立しました。サーマスは、日環科学らが開発した飼料や飼育管理手法によって育てられた豚の、ブランド豚「ノンメタポーク」としての販売、あるいは好熱菌による農業生産性の向上効果を客観的に評価するための分析サービスの受託など、これまでの好熱菌ベースの事業展開にとらわれない、新たな分野でのイノベーションの創造を目指して、活動しています。

## ●農業分野向け微生物の開発

また農業分野においては、千葉市産業振興財団、科学技術振興機構(JST)などの研究資金を活用して、植物の窒素利用を生産環境レベルで制御する微生物群の研究開発が進められています。

## ●次世代プロバイオティクス BP-863

動物への投与によって、幼齢期の成長促進効果や免疫力の向上、また脂肪蓄積の抑制(ノンメタ)作用が確認されています。



## ●ノンメタポーク

赤身に対する脂肪の割合を低下させた、ヘルシーな豚肉で、それでいて淡泊でなく、ジューシーな旨味と風味をたたえた逸品です。



## 3. 特記事項（期待される応用分野等）

- 2007年3月 バイオパターンセンシング法による豚生産環境評価技術の開発
- 2011年9月 廃水産資源および食品加工残渣を原料とする高機能性発酵飼料製造技術の開発